

積文の訂正と追加 (二)

京都・長岡京跡 (第一八号)

ながおかきょう

- 1 所在地 京都府向日市上植野町五ノ坪
- 2 調査期間 長岡京跡左京第三五六次調査 一九九五年(平
7) 一月～六月
- 3 発掘機関 (財)向日市埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 國下多美樹
- 5 遺跡の種類 都城跡
- 6 遺跡の年代 長岡京期(七八四～七九四年)
- 7 木簡の積文・内容

調査地は、左京三条二坊六町の宅地東南部に相当し、老人福祉施設建設に伴い、約二六〇〇㎡を発掘した。主な検出遺構には三条条間南小路北側溝と東二坊坊間小路西側溝の交差点部分、宅地内の二カ所の方形池状遺構、「水洗式」トイレ状遺構、小規模な掘立柱建物一棟と堀四条、柵三条、門一カ所などがある。

木簡は、条坊両側溝と池状遺構から出土した二〇点を、既に本誌

第一八号で報告している。

今回、追加報告する木簡一点は、東二坊坊間小路西側溝SD三五六二〇から出土した。遺物洗浄終了後、残っていた資料採取用土塊中から炭小片と共に見つかったものである。

(1) ・政所酒参升 政所料

。』

閏五月十日史□黄□□。』 (286)×44×2.5 0.19

幅の広い短冊型の文書木簡で、上端は折損、下端はキリ・オリ技法。両側面は割り面のまま。閏五月は延暦六年(七八七)にあたる。六町の宅地は、北西部の調査(左京第二二〇次、本誌第八号)で、「史秦」「官厨米」木簡の他、「主厨」「給服所」などの墨書土器が出土している。今回の成果も考え合わせると、当宅地の性格は、二町北に所在する官厨家と関連をもった官衙町の可能性が強い。

なお、木簡は墨痕が薄れていたため、奈良国立文化財研究所にて赤外線テレビカメラを使用して検討していただいた。(清水みき)